

映像教材を活用した実践例と「共生」をテーマにした取組みのご紹介

昨年度、JICA 地球ひろば主催の開発教育指導者研修に参加された愛知県の小学校教諭 加藤寿恵先生に、研修参加後の実践についてお聞きました。JICA 作成「授業で使える 10 分映像集（イスラム）」を活用する際の工夫・配慮した点や児童の反応や変容についてのお話、外国にルーツをもつ児童が在籍する学級での「共生」をテーマにした総合的な学習の時間での取り組みなど、新学期の実践の参考になる情報満載ですので、是非ご覧ください！

Q1) 「授業で使える 10 分映像集(イスラム)」を活用した実践について、単元の中でどのように映像を活用したかや工夫・配慮した点、映像を使うことでの児童の反応・変化について教えてください。また、映像教材のよかった点や、さらによい教材にするための気づきがあれば教えてください。

A) 開発教育指導者研修の「難民」、「イスラム」、「国際協力・SDGs」と「教育」の4つのテーマを見たときに、「これは、指導のヒントになるかもしれない！」と思いました。以前、イスラム圏に住む児童を担任する機会がありました。自分自身、周りにイスラム教を信仰している人がいなかったこともあり、イスラム教やその戒律についてあまり深く理解していませんでした。そのため、学校生活をする上で担任としてどんなことに配慮したら良いのかわからない部分がありました。そんな不安を抱えているときに出会ったのがこの研修でした。

総合的な学習の時間で、「みんな違って、みんな同じ！世界について知ろう！」という単元を行いました。この単元では、世界には様々な文化や生活習慣があることを知り、それぞれの良さや世界が抱えている課題に気付くことで、自分にできることはないか考えることをねらいとして学習を進めました。本校には、外国にルーツをもつ児童が在籍しているため、その子ども達の国や文化が否定されることのないように心がけました。そのため、イスラムの映像だけを取り扱うのではなく、世界には様々な宗教があることを紹介し、そのなかの1つとしてこの映像を紹介しました。本学習をする前は、世界の国々に対して否定的なイメージをもっている児童が多かったように思います。ただ、キリスト教では、ハロウィンやクリスマスなど日本でも取り入れられている文化もあるので、親しみをもっていると感じました。その一方で、イスラム教に対しては、テロリズムなどの報道の影響なのか、恐怖心を抱いている児童が多かったです。しかし、この学習を通してイスラム教では、富める者が貧しい者に財産を分け与える「喜捨」という義務があることを知り、助け合っているのだと受け止める子どもが多かったです。それまでもっていたイメージが、ある一面だったことに気付いたようで、とても嬉しく思いました。

映像集は、短い時間で分かりやすく要点がまとめられていたのでとても使いやすかったです。また、映像集では、音声もあるので見ている子ども達もその場にいるように感じる事ができたようです。今回は、イスラム教だけを取り扱うことに対して抵抗があったので、キリスト教についても取り扱いました。その時に、他の宗教についても同じような映像教材があると同様に紹介できるように感じました。

Q2) 担任をされている6年生の総合的な学習のテーマについて、「共生」を大きな軸にしていらっしゃるとお聞きしました。テーマにした背景やねらい、取り組み内容について教えてください。また他の先生方とどのように協力しているかも教えてください。その結果として、児童の変化や反応があれば教えてください。

A) 本校では、ここ数年で外国にルーツをもつ児童が増えてきています。児童の様子を見てみると、転校してすぐは言葉が理解できずに戸惑う様子が見られましたが、学校生活に慣れていくと日本語も習得し友達とも仲良く過ごしていました。外国では、日本とは異なる文化や生活習慣に違いがあることを知っている児童もいます。しかしながら、異なる文化や風習があることを知っているものの、どのようにしてその子達(人達)と接したらよいか理解することは難しいというのが私の印象です。しかし、これから今まで以上に外国の方と関わる機会が増えていくのではないかとことも踏まえ、6年生の国際理解教育では、様々な文化に触れることで、異なる文化や習慣をもつ人とお互いの考えを理解し、尊重し合う心を育むというねらいをもって、「共生」をテーマとして学習することとしました。

この単元では、世界には様々な国や地域があることを知り、その国の文化や生活習慣などについて調べます。調べ学習を通して、言葉や文化に違いがあっても、共通する点があることに気付かせたいと考えています。その上で、様々な国や文化の良さを尊重し合い、共に生きていくために自分達に何ができるかを考える活動をしていこうと考えています。調べ学習では、本やインターネットなど情報が限られてしまうため、実際に海外で生活したことのある人の話を聞ける機会を作りました。今年度、私は、教師海外研修でパラグアイを訪れたので、パラグアイの話をしたり、JICA の出前講座で元青年海外協力隊の方にエチオピアについて話をしてもらったりしました。子ども達は、海外の様子を聞いたり、写真や動画などを通して見たりすることによって、はじめにもっていたイメージから変わったり、日本との外国のつながりや似ていることがあることにとっても驚いたりしていました。今後の学習を進めていく上で、子ども達が自分達から、外国の方と関わってみたいと行動していけるようになることを願っています。

国際理解教育を進める上で気を付けていることは、他の国のことを肯定的に捉え、世界が抱えている課題と一緒に解決していこうという姿勢をもてるような教材作りに努めています。世界の国々の良さを伝えつつ、課題を地球全体の課題として捉え、身近なところから行動できるように展開することで子ども達にとってその場だけの学習に留まらないのではないかと考えています。

Q3) 開発教育・国際理解教育に関心を寄せる読者のみなさまへ、メッセージがあればお願いいたします。

A) 開発教育・国際理解教育と言われると、外国に行ったことがないからと思われがちです。しかし、国際理解教育で扱われている内容は外国についてもありますが、差別、人権、環境問題など日本国内や学校の中でも起こりえる内容が含まれています。幅広い分野に関わっているので、多教科で取り扱うこともできます。

開発教育・国際理解教育に興味をもたれたら一度、JICA 地球ひろば、もしくは日本国内にある JICA の施設を訪れてみてください。必ず、ヒントが見つかります。また、開発教育指導者研修や教師海外研修では、参加型の学習方法のヒントや同じ国際理解教育についてたくさん実践をしている仲間にも出会うことができます。是非一度、参加してみてください。